

## 《2010年7月例会報告》

【日 時】2010年7月21日（水）19:00～20:45（その後「ルン」～終電で帰りました）

【会 場】筑波大学附属高校 3F 会議室（東京都文京区大塚 1-9-1）

【テーマ】それぞれの2010FIFA ワールドカップー南アフリカってどんな国？

【報告者】岸卓巨（中央大学大学院）ほか

【参加者（会員）11名】阿部博一（日本サッカー史研究会） 牛木素吉郎（ビバ！サッカー研究会）  
岸卓巨（DUO リーグ事務局） 国島栄市（ビバ！サッカー研究会） 熊谷建志（会社員） 高橋義  
雄（筑波大学大学院） 竹中茂雄（FC 品川） 徳田仁（㈱セリエ） 名方幸彦（文京教育トラ  
スト） 中塚義実（筑波大学附属高校） 中西正紀（RSSSF）

【参加者（未会員）1名】白髭隆幸（日本スポーツプレス協会）

【ルンからの参加者】田中理恵

【報告書作成者】岸卓巨

\*\*\*\*\*

## それぞれの2010FIFA ワールドカップ

### 南アフリカってどんな国？

\*\*\*\*\*

#### 第1部 プレゼンテーション

#### 第2部 ディスカッション

- ◆アパルトヘイトの背景      ◆南アフリカは危険？      ◆日本代表の評価と日本での盛り上がり
- ◆フェンスに囲まれた国      ◆南アフリカの金銭感覚      ◆治安をめぐる
- ◆「ファンゾーン」「ファンフェスタ」と「パブリック・ビューイング」      ◆その他

中塚 ワールドカップ明け初回の月例会は、ワールドカップを題材に何かやりましょうということで今日の企画になりました。先月の月例会は、サムライブルーカフェにて、ちょうど私が南アフリカから帰ってきたところだったので、これから南アフリカに出発する方もいらっしゃるということで、現地の様子を紹介しました。今日は、「それぞれの2010FIFA ワールドカップ」というテーマで、南アフリカとはどのような国なのかということをお話いただき、その後ディスカッションしていければと思います。

### 第1部 プレゼンテーション

岸 7月10日（日）に豊島区で行われた「社会を明るくする運動」の一環で、南アフリカワールドカップの現地観戦報告を行いました。「社会を明るくする運動」とは、犯罪や非行のない、明るい社会を築いていくことを目的に法務省が主唱する地域活動です。当日は、地元豊島区の中学生を中心に約120名が参加してくださり、アパルトヘイトの歴史について触れながら南アフリカ現地の様子を紹介しました。その時にお話しさせていただいた内容を一部紹介させていただきます。



左の写真はヨハネスブルグ空港の様子である。私は、日本対オランダ戦の翌々日（6月21日）に日本を出発し、日本対デンマーク戦、スペイン対チリ戦を観戦して、6月28日に帰国した。成田を出発し、香港経由でヨハネスブルグ空港まで約20時間。ドイツワールドカップの際に現地で感じた興奮を再び味わえることにワクワクしながらも、やはり遠かった。

右の写真は、日本対デンマーク戦の試合後の様子である。日本からもたくさんの応援団が会場のラストエンバグに駆けつけていた。南アフリカの人々も日本の勝利に興奮していたのが印象的であった。



帰国して驚いたのは1週間日本にいないうちに日本代表のサポーターが増えていたことだ。池袋や渋谷でも普通に青いユニフォームを着た人が歩いている。

サッカーの試合ほど自分たちが日本人であることを意識することはないかもしれない。サッカーには多くの人を動かし、国を動かす力がある。その力を大いに利用してきたのが南アフリカの歴史だ。



南アフリカはさまざまな人種が混ざり合ってきた国である。もともとは黒人の「アフリカ人」がいくつもの部族に分かれて住んでいた。しかし、南アはヨーロッパから海を渡って船でインド方面に行く際の中継地点として便利であったため、はじめはオランダ、その後イギリスが植民地化した。さらに、南アでは金やダイヤモンドが採れたため、ゴールドラッシュ・ダイヤモンドラッシュで移り住んできた人々も多い。私のガイドをしてくださったビバリーさん（左写真）もダイヤモンドラッシュの時にレバノンから移り住んできた家族の4代目とのことであった。

南アフリカの歴史は、この金やダイヤモンドが発見されたことにより大きく変わることになる。イギリス系の白人とオランダ系の白人とで金やダイヤモンドを奪い合うボーア戦争という戦争が起こっ

た。その結果、戦争で勝利したイギリス系の白人たちが南アフリカを支配することになった。

しかし、これに反発したオランダ系の人たちはより団結して、国民党というグループを作り、1948年の選挙で勝つ。この国民党というオランダ系の人々によって進められたのがアパルトヘイトという制度である。アパルトヘイトでは、「我々白人は神に選ばれた民であり他の人種と混ざり合ってはいけない」という選民思想のもと、人数では国民の2割に満たない白人が、8割以上を占める黒人、カラード（有色人種）、インド人を徹底的に差別した。



その頃の歴史について調べたく、アパルトヘイトミュージアム、旧黒人居住区のソウェト（左写真）に行ってきた。上の写真は黒人だけが持たされていた身分証明書（パス）である。黒人は自分たちで商売することが禁止されていたため、このパスを持って、白人のもとに出稼ぎにいかねばならなかった。黒人は教育予算も削られ、机や教科書も十分でない学校で、アパルトヘイトは正しい政策であるということを教えられていた。サッカー協会などのスポーツ団体も人種別に作られ、

黒人は白人と一緒にスポーツをすることが禁止されていた。

そんな状況を変えようと黒人たちは運動を起こした。その中心にいて、政治犯として27年もの間捕まっていたのがネルソン・マンデラ氏である。中学生や高校生もアパルトヘイトに抵抗して立ち上がった。前ページのソウェトの写真で、子どもたちの後ろにある交差点は、1976年「ソウェト蜂起」という学生運動が行われ、ヘクター・ピーターソン君という中学生が警察官に撃たれて亡くなった場所である。この出来事については映画「遠い夜明け」をご覧ください。

日本対デンマーク戦に出発する際に私たちが滞在していたホテルで、スタッフが黒人運動の歌「シヨシローザ」を歌ってくれた（右写真）。紙面では歌声をお聞きいただけないのが残念だが非常に迫力があつた。

このような状況に対して、世界もアパルトヘイト反対の運動を起こした。黒人の身分証明書（パ



ス)の写真を撮るためのポラロイドカメラを製造していたポラロイド社を筆頭に、アメリカやイギリスでは数多くの会社が南アから撤退した。国内で、市民から反アパルトヘイトを訴える不買運動にあったのだ。ちなみに、アパルトヘイト政策を経済的に最も支えていたのは日本である。そのため、日本人は本来カラードでありながら「名誉白人」という資格を与えられていた。そのような日本に対して国連は名指しで反アパルトヘイト運動の強化を求めた。

このような動きの中で、南アフリカの一般国民に最も影響を与えたのはスポーツ界でのアパルトヘイト反対運動であった。国際サッカー連盟では1961年から南アフリカ代表の国際試合を禁止し、東京オリンピック、メキシコオリンピックへの出場資格も停止された。1981年に行われたラグビー南アフリカ代表のニュージーランド遠征では、ニュージーランドの人々によって試合が妨害される様子が南アフリカでもテレビ中継された。ビバリーさんの話によると、その頃、南アフリカに住む白人にとってアパルトヘイトは既に日常のことになっていたようだ。アパルトヘイトによって自分たちが好きなスポーツができないことは政治的な制裁以上にインパクトがあったという。特に白人に1番人気のラグビーに関して国際試合ができなくなることは絶対に避けたいという思いは強く、そのためにはアパルトヘイトを終わらせなければいけないという意識が高まったようだ。

このようなアパルトヘイト反対運動の高まりを受けて、1990年にネルソン・マンデラ氏釈放。1991年にはパス所持を義務付けるパス法廃止。そして、1994年には南アフリカ初の全人種参加選挙が行われ、ネルソン・マンデラ大統領が誕生した。マンデラ氏のすごいところは、大統領になった際、白人に対してアパルトヘイト時代の恨みを晴らすのではなく、白人を許し一緒に国を作っていこうと訴えたことだ。新しい国旗(右写真)で示されるような様々な人種が混ざりあったレインボーネーション(虹の国)を目指すことになった。



しかし、多くの黒人にとって、そう簡単に白人を許せるはずがない。そんな黒人と白人の溝を埋めようとマンデラ氏が利用したのがまたしてもラグビーである。アパルトヘイト廃止に向けても、新しい国づくりに向けてもラグビーをはじめとしたスポーツが利用されたのだ。1995年に南アフリカでラグビーワールドカップが開催され、南アフリカ代表が優勝した。ビバリーさんは、この試合をスタジアムで観戦していたそうだが、試合後に黒人と白人と一緒に喜ぶ様子が今でも頭から離れないと言っていた。この試合の詳細については、映画「インビクタス」に譲り、この場では割愛させていただく。

次に、現在の南アフリカの様子を写真と合わせて紹介する。



スペイン対チリ戦前のサポーターの様子。

ワールドカップを現地観戦する良さは、「試合が見られる」「開催国を知ることができる」に加えて、各国のサポーターと一緒に盛り上げられるということがある。ただ、今回はドイツに比べスタジアム外で騒いでいるサポーターがあまり見受けられなかった。

サイの親子。

屋根のない4WDに乗って野生の動物を見られる  
サファリツアーに参加した。

サイの他、見ることができたのは、  
ゾウ・キリン・バッファロー・シマウマ  
カバ・ワニ…。

アフリカは茶色が似合う。



ヨハネスブルグにある公園。

金やダイヤモンドが採れた時代にはとても栄えて  
いたエリアだが、現在は仕事のない移民も多く住  
み、窃盗や殺人事件が起きている危険地帯。日本  
のニュースを見ていると南アフリカは全てが危険  
という印象を持ってしまいが、安全なエリアが大  
半。その近くにはいくつか危険な場所がある。

高速道路。

南アフリカの車は左側通行、右ハンドルで日本と同  
じ。面積は日本の3倍で、町と町の間隔が離れてい  
るため、車で通勤している人が多く、交通渋滞也多  
い。

ソウェトでも、質素な家に住みながらBMWに乗っ  
ている人が多かったのには驚いた。



ソウェトで最も古いクラブチーム「オーランドパ  
イレーツ」のスタジアム。

かつては、黒人だけのクラブだった。

写真左側に見えるスタジアムでは、ワールドカッ  
プの前夜祭が行われた。

南アフリカの現地フード。

ホテルではイタリアンや中華など日本と変わらない食事をしていましたが、やはり現地のものを食べると南アフリカに来たことを実感する。

右は、ソウェトで食べた牛の内臓の煮込み。まさにモツ煮込みのようでとてもおいしかった。

これを、トウモロコシをつぶしたご飯がわりのもので一緒に食べた。



ソウェトにあるNIKEのトレーニングセンター。ここは地元の人たちも利用でき、建物の外には人工芝のピッチが4面ある。写真中央にあるパソコンで練習メニューや世界のサッカー情報が調べられる。

NIKEはピッチの中だけでなくピッチの外での育成にも力を入れているということで、この施設にはエイズの検査を行える設備もある。

## 第2部 ディスカッション

### ◆アパルトヘイトの背景◆

**中塚** ありがとうございます。私もアパルトヘイトミュージアムに行って、アパルトヘイトについて勉強するためのテキストを買ってきました。これはよくできていて、先生用と生徒用の二分冊になっています。

**中西** 『サッカーが勝ちとった自由』という本がありまして、オランダ系白人のアフリカーンスが親ナチ系に走っていったという話が出てきます。オランダの親ナチグループが南アフリカに逃亡してきて影響があったのではないかという話がきっちり書いてあるのでぜひお読みいただければと思います。これには、南アフリカがアパルトヘイトを続けられた理由と放棄した理由が両方出てきていて、南アフリカではレアメタルが採れたということに加えて、ソビエトの影響が大きかったのではないかとされています。クロムやマンガンなどのレアメタルはソ連か南アフリカでしか採れないんです。ですから、ソ連がシャットアウトすると南アフリカに頼らざるを得ない。さらに、タンザニアなどアフリカで社会主義政権が台頭してきている中で、南アフリカまで社会主義になってしまうとアフリカ全土が真っ赤になってしまう。それは阻止しなければいけないということで、アメリカやイギリスは南ア

フリカの核保有まで黙認してしまうという流れがありました。それが、ソ連が自由化して経済協力が進むとアパルトヘイト政権を維持する必要が全くなくなってしまったという経緯があります。

**阿部** 『サッカーが勝ちとった自由』は日本語で書かれている本では、1番黒人とサッカーについて詳しく書かれていると思います。これを読んで、実際にロベン島に行ってみると本当にこんなところでサッカーをしていたんだということが分かります。

**牛木** 『アフリカサッカー 歓喜と苦悩の50年』という本は、イングランドの新聞記者でアフリカサッカー担当だった者が書いたものを日本語に訳したものです。最初にマンデラがワールドカップの招致演説した話書かれていて、南アフリカについてもかなりのページ数が割かれています。自分で取材した人の話ですから、自分が旧黒人居住区のクラブを取材に行った話などが出てきます。読んで面白かったのは、ボビー・ムーアやボビー・チャールトンが、引退した後に、南アフリカでコーチをしている話です。私も南アフリカに行ってみましたが、南アフリカは白人が住むには快適なんです。本国では住めないような大きな家に住んで快適に暮らせます。当時は選手が行くと、人種差別政権に協力したということで、本国の代表に戻れませんが、引退した後であれば関係ない。そのような、僕らが思いつかないような話書いてあっておもしろいです。

**阿部** 今のズマ大統領も『サッカーが勝ちとった自由』に出てくるんですが、ロベン島でやっていたサッカーリーグで、レンジャーズ FC チームのキャプテンだったんです。1部から3部まであったそうなんですが、1部でプレーしていたそうです。中心になってやっていたメンバーの中に、セクワレという選手がいるんですが、その人は若い頃空手をやっていたのでトウキョウ・セクワレと呼ばれていたそうです。

**牛木** 今回のワールドカップ開催地を決める時に、アフリカでやることは決まっていたんですね。そこで、投票前にマンデラが演説したんですが、その中で一番の泣かせ文句は、「監獄の中で我々の楽しむは何だったか。それはサッカーだった。自分たちでやるサッカー。南アフリカでやっているサッカーの情報を得る。我々が自由を勝ち取ることができたのはサッカーのおかげだ」だったそうです。誇張され伝説になっている部分もあると思いますが、そういうところもおもしろいですね。

**中西** 私がゼミで南アフリカのサッカーについて話した時に、サッカーを好意的に見すぎているのではないかという批判がありました。しかし。タンザニアやエチオピアなど南アフリカ以外の社会主義国では、白人を追い出して経済的に崩壊してしまう。あるいは議会制民主主義が壊れてしまって、経済もだめ政治もだめという状況に陥ってしまう。確かに南アフリカも経済格差は大きいですが、それを調整する議会制度は一応生き残っているんですよ。そういう点では、サッカーを通して培ったフェアプレー精神などが統治において影響があったのではないかというプラスの評価は、ゼミの中でのコンセンサスとして得られました。サッカーやっているから貧しいのではないかという意見もでしたが、そのような意見には、貧しい国でもサッカーはできるということで収めさせていただきました。

**阿部** 政治的な難しい話は分からないのですが、実際にロベン島に行ってみるとそんな甘いものでは

なかったということが実感できると思います。写真とかに出ているのはアムネスティーが来た時とかで、日常的には非常に過酷な環境だったのだと思います。囚人が寝ていたベッドは玄関マットのようなものでした。

**牛木** おととい、森田さんというジャーナリストの旅行記を聞きました。彼は切符もネットで取って、旅行計画も自分で立てて行っているんですが、ソウエトの黒人の家に泊まったりしているんですね。南アフリカは危険だということになっているから、それを逆手に取って危険なところに連れていくということを商売にしていた人がいたそうです。それはネットで探せばいくらでも出てきます。黒人が住んでいるから危ないとか、小さな家に住んでいるから危ないというのは全くの間違いで、危険と、人種差別や格差は直接は結び付かないのではないかと思います。黒人とか何か。白人とは何かという問題はそう簡単ではない。

**中塚** おそらくアパートヘイトをやっていた頃は、そう簡単ではない話をめちゃくちゃ簡単に区別して、お互い接触しないような形をとっていたわけですね。

**牛木** その黒人を労働者として使うために隔離して彼らの国を作ったわけですね。そうすると、ヨハネスブルクやケープタウンに来て働いている黒人は外国人扱いになるわけです。そうすることで搾取が正当化されていくということがアメリカの人種差別とは違うところですね。

ラグビーのワールドカップが行われた時に、ラグビーはイギリス系白人のスポーツだった。そのワールドカップをやる時に、南アフリカ代表ということでマンデラが応援した。つまり、それは差別されていた人たちから見ると今まで自分たちを差別していた人たちに対する寛容の精神を示したわけですね。今回のサッカーワールドカップもマンデラが出動して南アフリカ開催に持ってきたわけだけど、今回は黒人のスポーツを白人も一緒に応援しようポリシーでやっているわけです。それは例えば、試合の時に手をつないで入場してくるエスコートキッズが11名ずつ計22名いるわけですが、必ず金髪の白人とか、黒髪の白人とかを入れています。僕には分からないけど詳細に見たら、インド系とかもいると思います。ハーフタイムに踊っている女性も黒人が主ですけど必ず白人が混ざっている。メディアセンターのレセプションでも、黒人が多いけど必ず白人もいる。このようにボランティアの採用もポリシーを持って行っていたんですね。そういうところはテレビでは分からないところですね。

**阿部** ボランティアに関しては、私は南アフリカの人だけだと思っていたんですけど、違いますね。世界中から来ていましたね。日本大会の時は日本人のボランティアばかりでしたよね？

**白髭** 韓国人の人を何人か呼んだという話は聞きましたけどね。

## ◆南アフリカは危険？◆

**阿部** あと、私も森田さんの南アフリカ報告に参加していたんですが、今回行く前に危ない危ないと言っていたのはメディアのせいじゃないかという話を森田さんがした時に、牛木さんが、一次情報は外務省の情報だと反論していました。



牛木 メディアの人間としてはメディア側も擁護しなければいけないからね。

阿部 私は外務省に加えて厚生省の情報もあるのではいかと思います。南アフリカはH I V感染者が世界で1番多い国なんですね。日本でのH I Vに関する情報は全然流されないのに、南アフリカに行ってみると観光案内所で普通にコンドームが配られたりしているんですね。

白髭 南アフリカのテレビだとH I Vやアルコールに関する番組も結構流されていきましたね。僕がテレビを見ていて一番驚いたのは、国営放送のニュースを見ていると、5分くらいの同じ映像を11の言語で次々と繰り返し流すんですね。これは大変だなと思いました。

岸 現地の人は結構お互いの言葉が分かるみたいですね。お互いに違う言葉をしゃべりながらコミュニケーションが成り立ったりしていますね。

白髭 アフリカンス語と英語は完璧に分かりますしね。

名方 英語以外だとどの言語が一番使われているんですか？

阿部 それは地域によって違いますね。例えば、ズールー人が多いところはズールー語だとか。

牛木 キオスクで売っている新聞は英語とアフリカンス語ですね。どちらも文字はアルファベットで英語と同じなんですけど、間違えて買うと全く意味が分からない。

岸 新聞でおもしろかったのは、デンマーク戦の翌日に新聞を買ったら、岡崎の名前が OZAKAJI になっていました。本田は車の名前なので覚えやすいみたいですね。ワールドカップ関係の車は HYUNDAI が多かったですね。

牛木 HYUNDAI はバスは作ってないよ。

岸 ベンツのバスに HYUNDAI と書かれていました。

### ◆日本代表の評価と日本での盛り上がり◆

阿部 私は今まで何回かワールドカップ行っていますが、今回現地に行って嬉しかったのは、「日本やるじゃん」「日本は良いチームだね」「本田いいね」みたいなことをいろいろな国の人が言ってくれたことですね。

白髭 パラグアイ戦はすごく良かったですよ。日本の応援をしている外国人がたくさんいました。

名方 私が日本にいて、日本が急に盛り上がる様子を見て、国民をこんなに盛り上げるのはやっぱりサッカーなんだなという気がしました。今の若者は将来に対して不安で暗いというイメージがありま

すが、そんな人たちがすごく盛り上がっていましたね。うちの近く的美容院でも急にパブリックビューイングをやると言ってチラシを配っていました。

**中塚** 現地で見たカメルーン戦の後、セリエの徳田さんが日本にいる人に電話して、池袋や渋谷がすごいことになっているということを聞きました。

**中西** 日本でいろいろなブログを流し読みしていたんですが、カメルーン戦当日の朝になってサッカーファンの論調が変わりました。それまで岡田監督や日本代表の批判をしてきた人たちが、せめて今日は応援しようというように変わっていました。一般の論調は勝ってから変わったんですが、サッカーファンの論調は朝に変わっていました。

**中塚** 池袋や渋谷の人たちはどこで見えていたんですか？

**阿部** カラオケボックスとかですね。

**白髭** 渋谷駅前のスクランブル交差点のスクリーンでも流していましたね。

**牛木** パブリックビューイングとしてやっていたところは日本がパラグアイ戦で負けてしまうとそこでやめてしまったと聞きましたが、そうでしたか？

**中西** そうですね。決勝はどこもやっていないと思います。時間が遅かったというのがありますし。

**白髭** 韓国は決勝までちゃんとやっていたみたいですよ。あの国では4年に1回そのようにやる習慣ができていますね。

**中西** 私の友人が根室に旅行に行っていたんですが、根室の公会堂でも日本オランダ戦はやっていたみたいです。それと、今、2022年のインスペクションチームが来ていますよね。この後に韓国に行くんですよ。韓国の招致ビデオを見たんですが、韓国の売りが、「韓国では千何百万人の人が街頭のファンフェスタに参加しているんだ」ということらしいです。KOREAS は世界で一番IT技術が発達した国だとか、最後はKOREAS と複数形で表現していましたね。

**白髭** ピョンヤンで何試合かやるということも言ってましたね。

## ◆フェンスに囲まれた国◆

**阿部** あと、私が感じたのは、南アフリカはフェンスに囲まれた国なんだなということです。私は民家にも泊まったんですが、鉄格子が一般の家庭のリビングスペースと寝室の間に張られているんです。それで、夜はそこに鍵をかけて寝るんですね。外は全て壁に囲まれていて、高圧電流が走っている。普通の住宅街って昼間はほとんど人が歩いていないんですね。人がいるところは、なんだかんだ言っても安全だけど、人がいないところが一番怖いなと思いました。夜のケープタウンの駅前とか本当に

人がいないんですね。

**白髭** 僕が最後に泊まっていた白人居住区は、昼間は大丈夫だけど、夜は絶対出歩いてはだめだと言われましたね。ショッピングモールが歩いて30分くらいのところにあったんですが、歩いて大丈夫かとゲストハウスで聞いたら、昼間は大丈夫だけど夜はだめだと言われました。

**阿部** あとは現地のインド人に連れられて何回かミニバスに乗りました。中は危なくないんですね。何が一番危ないかと言うと、15人乗りのバスに25人乗るんですよ。それで高速をとばすわけです。ちゃんと車には15人定員と出ているんですが、実際に数えてみたら、一番多い時には25人乗っていました。JICAの人たちが交通事故にあうという話をこれまで聞いて、なぜ交通事故になんかあうのかと思っていましたが、たぶんこういうバスが横転したりして事故が起きるのではと思いました。

### ◆南アフリカの金銭感覚◆

**徳田** いくらでバスに乗られましたか？

**阿部** ダーバンで乗った時は2人で20ランドを払いました。

**徳田** だいたい1人8ランドみたいですね。

**牛木** 1人150円くらいですね。もっと本当は安いんじゃない？

**徳田** 市営のバスは4ランドで50円くらいです。市営のバスの方が大きくて決まったルートを走っています。他のバスを排除するために導入されたんでしょうけど、お互い戦っていました。

**白髭** 僕は最後、ダーバンからヨハネスブルクまで高速バスで帰ってきたんですが、7時間乗って175ランドでした。

**中西** 2,000円くらいですか。

**白髭** ただダーバンの飛行場のエアポートシャトルは80ランド。だからその金銭感覚がよく分かりません。飛行場からソントンに行くハウトレインは、15分しか走らないのに110ランドくらいでした。

**徳田** プログラムが3種類あって、グループリーグ版とノックアウト版と決勝版。ドイツの時より安かったです。

**白髭** 決勝版はなかなか出てこなかったですね。印刷が間に合わなくて。

**阿部** ドイツの時は英語版とドイツ語版がありましたが、今回は英語版だけでした。

徳田 決勝版はすぐに売り切れてしまったみたいです。

## ◆治安をめぐる◆

中塚 徳田さんは期間中ずっと現地において今回の大会を側面から見ていたわけですけど、いかがでしたか？

徳田 今回は4回下見に行ってやっと本番に行くという形だったんですが、日本の方のイメージだと危ないところがほとんどで安全なところがところどころにあるというイメージだったと思うのですが、本当は逆で、大半は安全で、危ないところがいくつかあるというものだったので、それを伝えるのに苦労しました。ホテルなどもベストのポジションを取れたと思うんですが。うちはお客さんが自分の足で動けるような場所にホテルを取ったので、そのかわりにダウンタウンにだけ行かないようにということを徹底しました。危ない目にあった人は1人もいませんでしたが、泥棒が多くて、中東のが入って来ているらしくて。

牛木 凶悪犯罪についてはお客さん以外でも聞きましたか。

徳田 一番最初のブルームフンテンの試合の後にメディアの人間が身ぐるみ剥がされたくらいですかね。あとは置き引きばかりでした。

牛木 昔はワールドカップの時はスリもワールドカップをやっている、世界中のスリが来ていたんですが、最近は皆さんクレジットカードを使うので、スリはワールドカップをやめて、置き引きがワールドカップを始めているのではないかと思っています。

徳田 ラップトップを狙うやつが多いですね。高く売れるみたいです。

牛木 今回南アフリカで起こったことは南アフリカだから起こったわけではなくて、ああいう置き引きや引ったくりはどこのワールドカップでも起きています。一番危ないのはメディアセンターの中ですから。決勝戦の時間が一番危ないんです。今井さんのように長くカメラマンをやっている人はそれを知っているんで、全ての荷物を抱えて優勝カップを撮りに走ります。知らないカメラマンは荷物を置いて走るわけです。そうすると、帰ってきたら荷物が無い。ある時、日刊スポーツが400mmカメラを取られたんです。4年後に行ったら日刊スポーツと書かれたカメラを使っているやつがいたそうです。

徳田 大使館の情報だと、はじめ24件くらいスタジアムの中で置き引きの被害があったそうです。荷物と一緒にパスポートも持っていかれると、領事館に行ってパスポートを取らなければいけないんですよ。南アはインド系の人も多いから中東のスリがいても目立たないんですよ。

## ◆「ファンゾーン」「ファンフェスタ」と「パブリック・ビューイング」◆

阿部 我々サポーターがピッチの外で何をやってたがいくつかグッズを持ってきました。スタジアムの中にもファンゾーンのようなものがあるって、いろいろなスポンサーのブースがあります。例えば、

ソニーのブースに行くとソニーの3Dの宣伝をしていて、宣伝映像を見終わるとその日の会場名と日付と対戦カードなどが書かれたカードがもらえました。VISAカードのブースに行くと写真を撮ってくれて、後ろに番号が書かれたカードをくれるんですね。後でインターネットでその番号にアクセスすると自分の映った写真が見られるようになっています。あとは、ロナウドとドリブル競争をやるところとか、エミレーツ航空ではPKゲームのブースがありました。我々は試合前に少し早めに行けばそういうところで遊んでいました。日本大会の時にはあまりこのようなブースがなかったようですが、フランスやドイツの時にはたくさんありました。

**牛木** 前回のドイツ大会の時に、パブリックビューイングをする権利はFIFAが持っているわけです。日韓大会の時に、僕は新潟に関係していたんで、新潟でパブリックビューイングをやろうということをお願いしたんですが、スカパーに新潟でパブリックビューイングをやる権利を買いたいと言ったら、自分たちは放映権は買っているけどパブリックビューイングの権利は買っていない。だから日本ではパブリックビューイングができないと言われたんです。それで、JAWOCに言ったりして、結局限定的にお金を払ってやれたんですが、パブリックビューイングをやってお金を取ろうということにはなかったんですね。ところがドイツ大会の時は、地域組織委員会の委員長のベッケンバウアーがFIFAからパブリックビューイングのドイツ国内での権利を一括して買ったんです。一括して買って、各開催都市でファンフェスタという、無料で入れるゾーンを作って、そこに大きなスクリーンを設置したんです。そこには飲み食いができる場所もあって、そこではオフィシャルスポンサーのものしか販売できないというような形でやりました。ドイツでは学校などでやるパブリックビューイングの権利もベッケンバウアーが押さえていたので、これはすごいアイデアだなと思いました。ファンフェスタというアイデアがそれまでない中で、スタジアムには入れない人でも、みんなで飲み食いしながら盛り上がる場所をつくったのはすごいなと思いました。しかし、今回FIFAのサイトを見ると、ファンフェスタという名前で、南アフリカだけでなく世界各地でやっているんです。それはFIFAがやっている。ベッケンバウアーは地元のためにやったのに、FIFAはうまくいったら自分たちが金儲けできる。日本で驚いたのは、日本で権利を取ってやっているところは、日本の試合が終わったらやめてしまった。それ以上、権利金が払えない。それが本当の話なのか調べてみたいと思っています。

**中塚** 具体的には、1つはサムライブルーカフェのことですか？ 日本代表が勝っている間だけやっていたんです。

**牛木** そのお店は正規に権利金を払ってやっていたんだけど、日本が負けたら権利金が払えないからやめてしまったということなんですかね。

**白髭** そのお店ははじめから日本が戦っている間限定ということでやっていたんです。

**高橋** それはFIFAに直接払うんですか。間に電通とかが入るんですか。

**牛木** 仲介にはFIFAの子会社があるわけです。その子会社がテレビの権利を一括してFIFAから買っているわけです。その子会社は払ったお金を取り返さなければいけませんから、その権利を各国に売

ります。その権利は細かく分かれていて、生中継する権利、再放送する権利。今スカパーでやっているように前の試合を何回やる権利とか。今回は分からないですが、今までは、その権利は1年間で終わりのものでした。だから12月に総集編のようなものをやるわけです。これもサッカーからしたらマイナスで、1月になったら去年のワールドカップが見られないわけです。

**高橋** パブリックビューイングの権利は電通がもっているんですか？

**牛木** いやいや。スカパーが買っていたらスカパーだし、それを知りたいと思っています。

**中塚** ISLというのはもうないでしょ。

**牛木** もうないですね。

**徳田** パブリックビューイングで金を取る国って他にないですよ。お金を取りながらパブリックと言っているんですね。

**中西** 私もフランスの時にみんなで観戦する場に行ったんですが、その頃はクロードサーキットって言ってませんでしたか。クロードサーキットだと限られた人なので、有料化することが正当化された。パブリックだと無料が前提というイメージが強まるので、その辺をあえて言い換えたのはなぜなんですかね。私の友人が静岡のエコパでやっていたデンマーク戦のパブリックビューイングを見に行ったそうですが、権利の関係で、放映は試合開始の3分前からだったそうです。とすると、映像のコントロール権はおそらくスカパーではなく FIFA が直接持っているのではないかと思います。

**高橋** パブリックが無料というのは日本人の発想です。パブリックというのは階級、人種、宗教などに関係なく開かれたという意味ですので。お金を取る取らないは関係ないです。

**牛木** ドイツ大会の時にアディダスがベルリンの駅前にパブリックビューイングをやってお金を取ろうとしたんですが、ベッケンバウアーがそれはだめだと言ったんです。権利は俺が全部買っているんだから全部無料だと言って、結局無料になったようです。

**徳田** 私はそこで3決を見ましたが1ユーロ取られましたよ。

**阿部** その横のブランデンブルク門のところでもパブリックビューイングをやっていましたが、そこは無料だったので、アディダスの方はガラガラでブランデンブルク門の方に人が集まっていました。

## ◆その他◆

**名方** 今回日本人は何人くらい行ったんですか。

**阿部** 2,000~3,000人じゃないですか。

中西 個人旅行は非常に少なかったみたいですね。

牛木 いや、個人旅行の方が多かったんじゃないですか。ツアーの方が集客に苦勞していたみたいです。個人で行く人はどこの大会でも行ってしまいうんだから。

阿部 僕は現地に行くと必ず買う物があって、それは切手とCDです。このような切手がゲットできました。決勝のマッチレコードも牛木さんからいただきました。

中塚 おととい FIFA のサイトを見ていて気がついたんですが、得点王は5点取った4人だと思っていたんですが違いますね。ミューラーですね。何でもかと言うと、アシストの数が多くて、ミューラーがアディダスのゴールデンプーツをゲットしているんですよ。同じ5点でもフォルランは第2位みたいです。こんなルールでやっていたのかと思いました。

白髭 最後に FIFA が出した資料で、日本が9位になっているのにも驚きました。負けてないからですね。ポルトガルが11位でした。

中西 日本が世界のトップ10に入るのはすごいですね。

名方 FIFA には日本人の運営スタッフはいるんですか。

牛木 1人ラステンバーグのプレスオフィサーをやっていた加藤君がいます。ラステンバーグでは日本戦以外でも、日本人の記者には机のついた席が用意されるんですが、ヨハネスブルクだと何もない席でした。そういうようないい加減などところがあります。

高橋 FIFA がお金を出している大学がスイスにあるんですね。そこに行くと FIFA に繋がるみたいです。

白髭 FIFA は任意団体ですよ。だから、税金を納めていないと思います。

牛木 任意団体だから全て税金を納めなくていいというわけではないですけど、全責任はブラッターにかかってきますね。何らかの法人にはなっていると思うけど。

名方 でもハーバードなんかでも元々の考え方はNPOですからね。そういうのかもしれないね。

中塚 話はつきませんが、この後は場所を変えて話したいと思います。ありがとうございました。